特集

「ひかりTV」によるスマートTVサービスの普及・拡大を目指すNTTぷらら

●インタビュー●

“テレビを進化させる”を基軸に、４Ｋ映像配信など先進的なサービスの展開を加速

去る４月７日、NTTぷららは同社の映像配信サービス「ひかりＴＶ」の2014度事業説明会を開催。4K映像配信やキャリアフリー化、コンテンツ強化などに関するロードマップを公開した。「ひかりＴＶ」の現状や今後の展開について、板東浩二代表取締役社長にお話をうかがった。

株式会社NTTぷらら　代表取締役社長
板東 浩二氏

「スマートTVシステム」を基盤に、本年３月末で282万会員を達成

――まずは「ひかりＴＶ」の最近の状況からお聞かせください。

板東　ここ数年“スマートTV”を強く意識しながら事業展開してきました。2011年上期時点では、シングルチューナーによる映像プラットフォームを基盤に、映像サービスを中心としたサービスを展開していましたが、昨年6月からはトリプルチューナーの提供を開始し、現在は“スマートTVプラットフォーム”を核にしたスマートTVサービスを提供しています。現在「ひかりＴＶ」は映像だけでなく、クラウドゲーム、音楽配信、電子書籍、ショッピング、アプリなど多彩なサービスを、テレビだけではくスマートフォンやタブレット端末、PCでもお楽しみいただけるよう、マルチデバイス化を推進しています。これにより、300万近くのお客さまにご利用いただける業界最大規模のプラットフォームに成長しました。

――会員数の伸びは、いかがですか。

板東　本年3月末には、282万会員を達成。昨年度は、１ヶ月あたり3万会員前後の純増で推移しています。一方で光回線の伸びは鈍化し、以前ほど純増数の伸びがみられないことから、今後はスマートフォンやタブレット端末などモバイルユーザーを積極的に取り込んでいく必要があると思っています。そのためには、これまで以上に“スマートTVプラットフォーム”の整備を進め、それを土台に新たなサービスやアプリ、コンテンツを追加し、サービスを拡大する必要があります。

「ひかりＴＶ」は、テレビが単純にインターネットにつながるだけでなく、多彩なサービスをマルチデバイスでシームレスに使えることが、他のサービスには無い最大の特長であり、強みです。

―外部機関からも高い評価を得ていますね。

板東　MM総研の「スマートTVサービスAWARD2014」では、先進性、コアバリュー、顧客指向性（サービス）、顧客志向性（機能）、スマートTVサービス認知度の５分野において最も高く評価され、４年連続で最優秀賞を受賞しました。また、RBBTODAYの「ブロードバンドアワード2013」のテレビ部門において、ビデオオンデマンド（VOD）の部で２年連続最優秀賞を受賞しています。引き続き、このような賞をいただけるよう、サービスの拡充を図っていきたいと思います。

コンテンツ強化、キャリアフリー化など、４つの取り組みに注力

――2014年度の事業戦略をお聞かせください。

板東　スマートTVシステムを確立した「ひかりＴＶ」が目指す方向は、大きく分けて４つあります。

一つは、サービスやコンテンツの多様化を図ることです。具体的には、日本初上陸のゲームタイトルの拡充や、「ひかりＴＶミュージック」の提供楽曲を1,000万曲へ拡充することを考えています。また、国内初となるペット専門チャンネル「DOGTV」を本年６月より開始しました。

次に、サービスやコンテンツの高度化も目指します。その中でも特に、「4Kサービス」の展開に注力したいと考えています。すでに本年４月８日から4KによるVODのトライアル配信を実

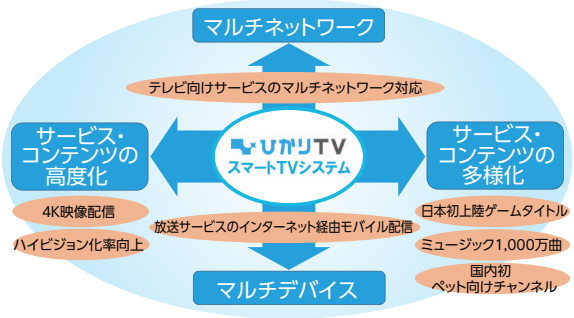

図1　ひかりＴＶの目指す方向性

施しており、本年10月には4K-VODの商用サービスを開始する予定です。また、本年6月からは4KによるIP放送のトライアルも実施しています。IP放送の商用化については、トライアルの結果や映像コンテンツの調達状況を踏まえ決定したいと考えています。さらに4Kコンテンツだけでなく、ベーシックチャンネルとして提供している43チャンネルの100%ハイビジョン化を、本年5月1日より達成しています。これにより、オプション契約のプレミアムチャンネルなどを含めた全チャンネルのハイビジョン化率は93%となり、業界最大級のハイビジョン化率となりました。

最後に、映像サービスのマルチネットワーク／マルチデバイスへの対応にも注力します。「ひかりＴＶ」は、NTT東日本およびNTT西日本のフレッツ光回線を用いたテレビ向け映像配信サービスとしてスタートしましたが、今では一部を除くVODサービスについて、スマートフォンやタブレット端末、PCでもご覧いただくことができます。今後はネットワークのオープン化とキャリアフリー化を推進します。放送サービスについても、インターネット経由でIP放送をユニキャスト配信し、マルチデバイスで受信可能な仕組みを構築したいと考えています。全国に配信ノードを配置することで、ネットワークの負荷軽減を図ります。

2014年度の最重点施策は、4Kサービスの展開

――4つの取り組みの中で、今年度の最重要施策は・・・・。

板東　「4Kサービス」の展開です。4K-VODの配信トライアルでは、4Kカメラで撮影した映像データを、従来の約2倍の映像圧縮性能を有する動画圧縮方式H.265/HEVCで圧縮して、フレッツ光ネクスト上で約30Mbpsで配信し、トライアル用に開発した4K対応チューナーを通して秒間60フレームの4K映像を市販の4Kテレビに映し出します。トライアル開始当初は、㈱NHKエンタープライズ様の作品の一部を独占で提供するほか、弊社独自製作の「下町ボブスレー」など合わせて10作品（順次作品追加予定）を提供します。4Kならではのコンテンツの調達が鍵になりますが、本年10月の商用サービス開始時には、外部調達作品に独自コンテンツも合わせ、なんとか100本程度を提供したいと考えています。

米国では、NetflixとAmazonが4K-VODサービスの開始を表明していますが、国内では弊社が初めて4K-VODの商用サービス開始をアナウンスした反響は非常に大きく、数多くの方々から連携に関するお話をいただいています。また、4K市場の早期創出に向け、複数のテレビメーカー様と「ひかりＴＶ」4K対応チューナーを内蔵した4Kテレビに関する調整を進めています。現在、「ひかりＴＶ」のVOD再生回数は月2,600万回にまで拡大しています。このVOD市場を確立させた時と同様に、先陣を切って積極的に4K市場を開拓したいと思っています。

スマートTVのさらなる進化に向け、取り組みをドライブ

――最後に、今後の抱負をお聞かせください。

板東　NTTぷららでは、2008年からNTT東日本およびNTT西日本で提供を開始したNGNサービスのキラーコンテンツとして「ひかりＴＶ」の展開に注力してきました。正直に申し上げますと、黒字化までには大変な苦労がありましたが、とにかく「テレビを進化させたい」との一心で取り組んできました。携帯電話がインターネットに繋がり10年もしない間に、スマートフォンが誕生しました。テレビもブロードバンドに繋がることで大きく変わる、そこにこそ我々のビジネスチャンスがあると捉えています。いつでもどこでも「ひかりＴＶ」が楽しめる環境を構築することで、できるだけ早い時期に300万会員を達成し、来年3月末には320万会員を目指したいと思っています。

――本日は有難うございました。

（聞き手：特別編集委員　河西義人）

※「ひかりＴＶ」のテレビサービスは、株式会社アイキャストが提供するサービスです。